

2023年度公益財団法人JKA補助事業

教育現場のICT安全・安心対策事業 実施報告書

令和6年3月

一般社団法人日本教育情報化振興会



この事業は競輪の補助金を受けて実施したものです。

目次

第1章	1
情報モラル指導充実のための事業	1
1. 事業の目的	2
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	3
3. セミナー開催	7
4. 教育の情報化推進フォーラム	27
5. 今年度作成したコンテンツの概要	30
6. まとめ	35
第2章	36
コミュニケーション力育成のための事業	36
1. 事業の目的	37
2. 作業項目とスケジュール／作業体制	39
3. 「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを 活用した実践事例集」	42
4. セミナー開催	47
5. まとめ	59

第1章

情報モラル指導充実のための事業

1. 事業の目的

インターネットは、社会生活の一部となり、買い物や予約申込み等は電話よりもむしろインターネットを利用して行い、インターネット無しでは考えられないというほど、社会生活に浸透している。また、スマートフォンの爆発的な普及によりインターネットへの入り口となる端末は、パソコン、携帯電話からスマートフォン、タブレット端末、ゲーム機、音楽プレーヤーのように多様化すると同時に、いつでも、どこでも、誰でもインターネットに接続して、利用できるものとなっており、児童・生徒は保護者の目の届かないところで利用できるようになった。また、2022年度には、文部科学省の政策「GIGAスクール構想」により、児童・生徒1人に1台のPCが整備され、その活用と児童・生徒の安心安全のための配慮が非常に重要なテーマとなっている。

このように身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安全安心にできるようになると同時に、もう一方では児童・生徒がSNS・Twitterや無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT安全安心対策事業」を展開しており、この中の一つの事業として「情報モラル指導充実のための事業」を実施している。

これまで、インターネットには危険な面があるということで児童・生徒をそれらから遠ざけるのではなく、子どもたち自身がインターネットを上手に使い、上手に付き合っていけるようにすることが大切であるという考え方に基づいて「ネット社会の歩き方セミナー」を開催してきた。これは、直接、児童・生徒と保護者に対し、ネット社会をどう歩いていけばよいのかを指導、啓発するセミナーであったが、学習指導要領の総則に「各教科等の指導にあたっては…情報モラルを身につけ…」と記載されたことを契機に、全ての教員が、全ての教科で情報モラル指導をできるように、その指導法、教材や現在児童・生徒の抱えている問題点など最新の情報を提供することを目的として、平成23年度から公益財団法人JK Aの補助をいただき、情報モラル指導の講師を育成すべく「情報モラル指導充実のための事業」を行い、教職員や教育委員会の指導主事などを対象としたセミナーを開催して、今年度はその10年目にあたる。正しい指導方法を広く展開することを重要な観点として、セミナー参加者がその地域の教育委員会や学校に戻り、そこで講師として指導ができるための教材と指導方法を伝える資料を用意し、裾野を広げるための活動としている。

なお、これらは公益財団法人JK Aの競輪の補助金を受け実施した。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである

図表1 作業項目とスケジュール

作業項目	2023年									2024年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会開催	▼① 28	▼② 25		▼③ 3		▼④ 4	▼⑤ 16	▼⑥ 29			▼⑦ 1	
開催地公募	---▼											
テキスト改訂	▲-----▼											
セミナー開催			▲-----▼									
学習教材開発		▲-----▼										
教育の情報化 推進フォーラム												▼ 16

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「ネット社会の歩き方情報モラルセミナー検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全7回の検討委員会を開催し、作業スケジュールの策定、セミナー開催地の公募と採択、セミナー用テキストの改訂、セミナー開催時の講師、学習教材の企画と開発、成果発表会での報告等、本事業の全体を管理した。

また、セミナー用テキストの改訂の実作業、セミナー開催地の教育委員会との連絡、セミナー開催準備、学習教材開発の実作業等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
鳴門教育大学大学院	教員養成 DX 推進機構長・教授 藤村 裕一
中央大学	非常勤講師 榎本 竜二
新見公立大学	特任教授 梶本 佳照
エンゼル幼稚園	子育て支援センター長 勝見 慶子
千葉学芸高等学校	総務部長 高橋 時生
柏市教育委員会	教育研究専門アドバイザー 西田 光昭
京都市立向島秀蓮小中学校	教諭 堀川 紘子

千葉大学教育学部 附属中学校	副校長	三宅 健次
川崎市教育委員会	指導主事	和田 俊雄

図表 3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人 日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	事務局次長・調査研究開発部長 吉田 真和	総括・研修対応・窓口
同上	企画担当部長 岩瀬 幹彦	研修対応

(3) 委員会の開催

委員会は、適宜日程を調整し開催した。今年度は、たくさんの教材開発を行なったため、確認事項が多く発生したが、年間7回の委員会を開催した。

それぞれの開催日、議題は下記の通りである。

図表 4 委員会開催実績

開催回数	開催日	議題
第1回	R5. 4.28	<ul style="list-style-type: none"> ・年度スケジュールの確認 ・セミナー開催地採択と担当委員の選定 ・GIGA スクール構想に対応した共通教材の改訂の検討 ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本、改変 3 本） - 「ネット社会の歩き方」グループワーク用コンセンサス（合意形成） カードゲーム 小学校高学年以上向け （A4（PPT）：24 枚） - ペーパーサート教材幼児向けイラスト素材増強 ・オンラインセミナー企画検討
第2回	R5. 5.25	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルセミナーテキストの改訂について ・新規教材について <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ 10 本、改変 3 本） - 「ネット社会の歩き方」グループワーク用コンセンサス（合意形成） カードゲーム 小学校高学年以上向け （A4（PPT）：24 枚）

		<ul style="list-style-type: none"> - ペープサート教材幼児向けイラスト素材増強 ・ 関西教育 ICT 展 (8/3) のパネル討論について ・ オンラインセミナー企画検討
第3回	R5. 7. 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規開発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材 (新規コンテンツ 10 本、改変 3 本) - 「ネット社会の歩き方」グループワーク用コンセンサス (合意形成) カードゲーム 小学校高学年以上向け (A4 (PPT) : 24 枚) - ペープサート教材幼児向けイラスト素材増強 ・ 関西教育 ICT 展 (8/3) のパネル討論について ・ JAET 全国大会青森大会(10/28)のパネル討論について ・ オンラインセミナー企画検討
第4回	R5. 9. 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規開発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材 (新規コンテンツ 10 本、改変 3 本) - 「ネット社会の歩き方」グループワーク用コンセンサス (合意形成) カードゲーム 小学校高学年以上向け (A4 (PPT) : 24 枚) - ペープサート教材幼児向けイラスト素材増強 ・ JAET 全国大会青森大会(10/28)のパネル討論について ・ オンラインセミナー企画検討 ・ 2024 年度開発教材の検討
第5回	R5. 10. 16	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の情報化推進フォーラム (3/16) のパネル討論について ・ JAET 全国大会青森大会(10/28)のパネル討論について ・ 新規開発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材 (新規コンテンツ 10 本、改変 3 本) - 「ネット社会の歩き方」グループワーク用コンセンサス (合意形成) カードゲーム 小学校高学年以上向け (A4 (PPT) : 24 枚) - ペープサート教材幼児向けイラスト素材増強 ・ オンラインセミナー企画検討
第6回	R5. 11. 29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の情報化推進フォーラム(3/16)のパネル討論について ・ 新規開発するコンテンツについて <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材 (新規コンテンツ 10 本、改変 3 本)

		<ul style="list-style-type: none"> - 「ネット社会の歩き方」グループワーク用コンセンサス（合意形成） カードゲーム 小学校高学年以上向け （A4（PPT）：24枚） - ペープサート教材幼児向けイラスト素材増強 ・オンラインセミナー企画検討
第7回	R6. 2. 1	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の情報化推進フォーラム(3/16)のパネル討論について ・開発教材の最終確認 <ul style="list-style-type: none"> - ユニット教材（新規コンテンツ10本、改変3本） - 「ネット社会の歩き方」グループワーク用コンセンサス（合意形成） カードゲーム 小学校高学年以上向け （A4（PPT）：24枚） - ペープサート教材幼児向けイラスト素材増強 ・2024年度開発教材の検討、準備

(4) 開催地の公募

開催地の公募は、教育委員会の意向もあり¹前年度の1月より行った。日本教育情報化振興会のWebページで公開すると共に、全国の都道府県と中核市以上の教育委員会約120カ所へ下記内容の案内状を送付した。また、当会の会報を全国自治体（1、724カ所）の教育委員会に送付しているが、そこに下記内容の案内状を同封した。

1) テーマ

「情報モラル教育指導のポイント」

2) 開催時期と時間

令和5年6月から令和6年2月の間の午後、最低2時間30分

3) 対象受講者と会場あたりの定員

指導主事、教職員 約50名程度（目安）

4) 開催会場

地方自治体等の無償で利用できる会場 かつ 受講者がパソコンを使用可能な会場

5) セミナーの具体的な内容

講師育成セミナー検討委員会と貴教育委員会の協議で決定する

6) セミナーのプログラム（例）

- ・データから見るネット社会の現状
- ・情報モラルの指導（理論編および実践編）

¹通常、地方自治体の教育委員会は教員研修計画を前年度の2月頃に策定している。この計画に組み込むために、本事業で実施するセミナーの採択に関しても早期の決定を求められている。

- ・「ネット社会の歩き方」の活用
- ・その他の教材の紹介
- ・保護者との関わり
- ・問題発生時の対応
- ・ワークショップ

(5) セミナー用テキストの改訂

セミナー用テキストの中には、携帯電話・スマートフォンの保有率やネット上のトラブル発生状況等、年々変化する数値データがあるため、中央省庁が発表している最新データに更新した。

さらに、GIGAスクール構想により、1人1台のPC環境整備による情報モラルの重要性についても、解説を追加した。

また、スマートフォンを保有する比率が増え、アプリの進展による新しいSNSのサービスや問題にも対応する必要があった。このように世の中の動きを反映したセミナーとするために、委員の意見に基づき（過去一年間程度のネット上のトラブルやリスクの中から喫緊の課題と考えられる事案を取り込む）資料の差し替えを行った。

3. セミナー開催

(1) セミナー開催

本事業で提供するセミナーは、全国の教育委員会が主催している教員向け研修会の一プログラムとして実施される場合が多い。この関係で、教員が比較的時間を確保し易い、夏休み期間に開催が集中している。教育委員会の指定が無い場合は以下のプログラムでセミナーを実施することとした。

2023年度は、一部の自治体ではオンライン形式で実施したが、集合研修のセミナー開催が大幅に増加した。

図表5 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	R5. 6. 1	沖縄県西原町教育委員会	藤村委員長	36名
第2回	R5. 6. 16	高知県越知町教育委員会	西田委員	40名
第3回	R5. 6. 30	大阪府堺市教育委員会	西田委員	20名
第4回	R5. 7. 21	大阪府教育庁	三宅委員	39名
第5回	R5. 7. 25	大阪府守口市教育センター	西田委員	14名
第6回	R5. 7. 26	長崎県新上五島町教育委員会	藤村委員長	16名
第7回	R5. 7. 27	岩手県八幡平市教育委員会	三宅委員	16名
第8回	R5. 7. 29	栃木県真岡市教育委員会	和田委員	36名
第9回	R5. 7. 31	千葉県成田市教育委員会	三宅委員	27名

第10回	R5. 7. 31	大阪府豊中市教育委員会	藤村委員長	48名
第11回	R5. 8. 1	山口県山陽小野田市教育委員会	藤村委員長	36名
第12回	R5. 8. 2	広島県呉市教育委員会（オンライン形式）	榎本委員	110名
第13回	R5. 8. 3	関西教育 ICT 展	藤村委員長 榎本委員 梶本委員 和田委員	120名
第14回	R5. 8. 8	広島県教育委員会	三宅委員	94名
第15回	R5. 8. 9	富山県滑川市教育委員会	西田委員	35名
第16回	R5. 8. 22	佐賀県教育庁（高校の部）	榎本委員	37名
第17回	R5. 8. 22	佐賀県教育庁（小中学校、特別支援学校の部） （オンライン形式）	榎本委員	46名
第18回	R8. 8. 23	長崎県雲仙市教育委員会	梶本委員	30名
第19回	R5. 8. 24	鹿児島市立学校 ICT 推進センター	西田委員	20名
第20回	R5. 8. 25	東京都大田区教育委員会	榎本委員	95名
第21回	R5. 8. 30	鹿児島県屋久島町教育委員会	西田委員	26名
第22回	R5. 9. 15	鹿児島県総合教育センター	梶本委員	30名
第23回	R5. 10. 19	栃木県総合教育センター	和田委員	36名
第24回	R5. 10. 23	愛媛県西条市教育委員会	藤村委員長	40名
第25回	R5. 10. 28	JAET 全国大会青森大会	藤村委員長 榎本委員 高橋委員 和田委員	14名
第26回	R5. 12. 14	山形県山形市教育委員会	三宅委員	13名
第27回	R5. 12. 18	教員養成 DX・ICT 活用教育シンポジウム （鳴門教育大学）（オンライン形式）	藤村委員長 他3名	27名
第28回	R6. 3. 16	教育の情報化推進フォーラム	藤村委員長 榎本委員 三宅委員 和田委員	52名
合計				909名

図表 6 大阪府教育庁のセミナー風景（令和5年6月30日）



図表 7 長崎県新上五島町教育委員会でのセミナー風景（令和5年7月26日）



図表 8 岩手県八幡平市教育委員会でのセミナー風景（令和5年7月27日）



図表 9 栃木県真岡市教育委員会でのセミナー風景（令和5年7月28日）



図表 10 富山県滑川市教育委員会でのセミナー風景（令和5年8月9日）



(2) セミナー開催団体の所感

セミナー開催団体の所感を以下に抜粋する。

- 1) 前半の「ネット社会の歩き方」の講演では、研修テキストに沿って、ネット社会の現状、情報モラルの意義について説明があった。日々変化し続ける高度情報化社会において、学校における情報モラル教育の必要性を見つめ直す機会となった。後半のワークショップでは、パワーポイントで授業を想定した教材を作成した。参加者にとって初めての体験だったが、実際の授業をイメージしながら教材作成に熱心に取り組んでいた。自ら教材を開発するという経験は、今後の情報モラル教育に主体的に取り組む姿勢につながると感じた。タイトな日程であったが、厳選された内容で講話いただき、さらにワークショップの機会まで設定いただいたことで、参加者は集中して講義を受け、充実した研修会になった。端末の普及・活用が急速に進み、情報を取り扱う際のマナーやきまり等については、トップダウンの指導や「～してはいけない」と抑制する指導になりがちだったので、必要感や実感の伴う情報モラル教育のためには、当事者に考えさせ、望ましい形を見出させることが大切であることや、その方法を知ったことで、この学びを実践につなげたいという意欲を持った方が多かった。
- 2) 第1部の講話では、本市の実態に合わせた具体的な内容で、教職員にとって分かりやすく御講話いただいた。先進市の事例についても大変参考になった。第2部のワークショップでは、各校の情報モラル教育の様子について情報交換しながら、「ネット社会の歩き方」のホームページにある教材の活用方法について検討、共有した。参加者からは、「情報モラルを分かっている、どのように教えたらいいのか悩んでいた、とても勉強になった。」や「実際に資料を作成することで、学校でも共有することができる。」などの感想が寄せられた。
- 3) 藤村先生には、本市の一人一台タブレット端末活用状況を踏まえ、GIGA スクール構想の概要や、なぜ端末の活用が大事なのか、端末を活用した実践事例、情報モラル教育の必要性等について講演いただいた。受講後のアンケートに対して受講者から、「子どもたちが自分の考えで安全にネット社会を歩いていけるように、学校で何ができるかを考えたい。」「メリット・デメリットを伝えながら情報活用能力を高めていけるように普段の生活から使わせていきたい。」といった回答を得られた。
- 4) 該当分野における第一人者であり、以前から様々なご指導をいただいている藤村先生に今回もご講演いただけたのは大変有難かった。講演部分の前半は、1人1台端末を活用することが前提の情報モラルの在り方についての講義及びNEXTGIGAに関する国の取組現状・進捗状況、他自治体における様々な取組みの解説を行っていただき、後半は、講義内容を踏まえた教材の紹介や、これを利用したワークショップを実施した。
- 5) 最初の1時間程度は、主に情報モラル教育が必要となった背景についてプレゼンテーション資料に合わせ解説して頂く時間であったが、その内容のわかりやすさや的確さから参加者全員が非常に興味深く傾聴している様子であった。その後の2時間程度は事前に配布された紙媒体の教材やオンライン教材を用いて、授業のデモ体験を行った後、どのような教材が用意されていてどのように活用できそうかを考えるワークショップが実施された。参加者からは「実際に行うワークショップが参考になった」という声や、「職員や保護者との研修の機会の中で情報共有を図りたい」といった好意的な反応が多かった。
- 6) 参加者は、情報モラル教育の第一人者である藤村先生の講義を非常に楽しみしており、積極的に参加していた。また、理論的な話のみでなく、具体的な教材についての説明やワークショップによる体験授業などを多く取り入れていただき、参加者の事後アンケートから、学校が始まったらすぐに実践してみたいなどの感想が多く見られた。参加者から集約した「情報モラル教育で、困っていること・相談したいこと」にも一つ一つ丁寧に対応いただき、全参加者にとって満足度の高い研修になった。

図表 1 1 セミナー開催団体の所感

開催場所	講師	所感
沖縄県西原町教育委員会	藤村委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、参加した先生方は、全員が本講義を初めて受講する教員であった。そのため、子供を取り巻くネット社会の諸問題や現状を学び、驚きと同時に改めて情報モラル教育が今後さらに重要になってくることを認識した。また、受講者は、「ネット社会の歩き方」サイトを活用した指導方法を学び、これまで外部講師を招いて行っていた情報モラル教育を日常的にできることを知った。後半は、サイトを活用した模擬授業を行った。グループで話し合うことで、多様な授業展開を考えることができ、指導の幅がさらに広がったとの声が受講者からあった。 ・本町は、学力向上の重点事項にICT活用を推進、中でもタブレットを活用した授業改善を位置づけている。そのため、年に2回タブレットを活用した授業研を実施している。一方で教育委員会として情報モラル教育においても継続して推進していく。
高知県越知町教育委員会	西田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの意義や指導方法について、「ネット社会の歩き方」を活用した指導事例や先進校の取り組みなどを具体的に学ぶことができ、すぐに現場で使えるもので大変勉強になったとの意見が多くありました。 ・教職員の皆様には、タブレットは学習のために毎日必要な文房具として、楽しく学びに向かうことができる授業づくりを心掛け、日々新たな挑戦や実践を続けています。まさに、児童生徒を指導する立場の教職員が、常に学び続けることが必要であると感じました。今回の研修で学んだことが、どのように学校現場で活用されているのかも小中学校間で共有していきたいと思えます。 ・昨年度に続き、今年度も「情報モラルセミナー」を越知町で開催していただきありがとうございました。来年度以降も継続的に本事業を活用させていただければと願っています。 ・これからの情報社会に必要なモラルの面を、少しでも指導の一部に取り入れるための学びとなりました。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期のネットの長時間 使用について心配しています。保護者の方にも、もう少し気を付けて頂きたいと思うのですが。 ・ すべてを制限するのではなく、マイナスな体験から学び取れるような児童を育てていきたいです。 ・ 社会人としても教員としてもネットに潜む問題を、現状と照らし合わせて学ぶことができました。今後の指導にも活かしていきたいです。 ・ 子どもたちの方がタブレットを上手に使えるように感じるが、適切な使い方であるかと考えると、必ずしもそうではないように思える。これからは子どもと共によりよい使用について考えていきたいと思いました。 ・ ネット社会により便利になって、知りたい情報をすぐ得ることができるが、気を付けなければいけないこと沢山あります。それをどのように子どもたちに伝えていくか手立てや手段を学ぶことができました。 ・ 身近なものであるからこそ、そのメリット、デメリットについて正しい知識を持って共存してもらいたいと思います。 ・ 動画教材からイラスト教材まで、わかりやすく伝えやすい内容のものがたくさんあったので、活用させていただきたいと思います。 ・ 情報モラルについて改めて考えることができました。タブレットやスマートフォンが生活の一部として利用されている現在、子どもたちへの指導や自身のモラルに対する意識を高めるよい機会となりました。
大阪府教育庁	三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT の活用について、具体的な事例とともに最新の情報等を教えていただき、驚きがありました。 ・ 最新のツールをご紹介いただいたので、活かせるものは取り入れていきたい。 ・ 社会の変化に遅れないように、日々使い方を学ぶ必要があると思いました。ある程度は慣れてきているので、次はより工夫していきたいです。 ・ ICT は今後さらに多様化してくるので、モラルを身に付けるよう指導していく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にどのように指導すればよいか、生徒自身が考えていく教材が大変参考になりました。 ・具体的な事例と理論、体験がセットになっていて、大変わかりやすかったです。 ・ねらいに応じてメディア等を使いこなせるようになることが目標ということがわかって良かったです。 ・情報担当と連携して、校内研修をおこなっていく。 ・便利なもの、楽しいものをルールやマナーを守って、正しく使えるように工夫しながら指導していきたいです。 ・情報モラルについて、多くのアイデアや教材活用の仕方など知ることができました。 ・アナログとデジタルを使い分けて、子供たちが、学び合える授業づくりを行っていききたいです。
長崎県新上五島町教育委員会	藤村委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット社会の現状として、「子どもを取り巻くネット社会の諸問題（学習用端末編と SNS 編）」について説明をいただいた。「なりすまし」など、今後も SNS を利用した問題がさらに増えていくことが懸念される中、メモをとりながら受講する参加者の姿が多数見られた。 ・情報モラル教材ポータル「ネット社会の歩き方」を実際に活用した演習では、ネットショッピングや SNS 利用の類似体験を通して、情報端末の適切な使い方やトラブルにならないやり取りについてより深く考えることができた。参加者の中からは、「情報モラル教材ポータルと SNS ノートながさきを活用しながら子どもたちに情報モラルの指導を行っていきたい。」や「本研修で学んだことを校内研修等で先生方に広げていきたい。」という意見が聞かれた。 ・「ネット社会の歩き方」について、より深く学ぶ機会となったことで、今後、各学校において情報モラルの指導がより具体的に行われていくことが期待される。 ・町教育委員会としては、今後も情報教育に関する研修を計画し、実践していくことで、先生方の指導力向上へと繋げていきたい。

大阪府堺市教育委員会	西田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ形式で実施していただき、参加者は積極的に意見交換し、得るものも多かったようである。また、教材等もたくさん紹介いただき、学びの多い研修になったと考える。教員の振り返りでも、「夏に教員向けに校内研修を行う」「このような研修をもっと実施してほしい」「他の校種と情報交換ができ、自校の情報モラル教育の充実をしないといけないと感じた」等学校に持ち帰り、それぞれが深めていくような意識の向上が見られた。 ・毎年、外部業者 と連携し小学校4年生、中学校2年生向けに情報モラル教室を実施している。本市の状況で、ネットいじめ等の事案が増えていることあり、教員からも研修を希望する声が多くなってきている。教員向けの情報モラル教育の研修の充実を図っていかねばならないと感じている。
大阪府守口市教育委員会	西田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加者は、手元のタブレットを活用した、意見の収集や共同編集でのワークショップ、豊富な情報モラルの教材を活用しての授業案作成のワークショップなどを積極的に行い、非常に充実した時間を過ごしていた。事後の振り返りなどでも、これからの子どもたちが歩いていく社会で情報モラルについてのスキルが必ず必要になることを改めて認識したという感想が寄せられた。 ・本市では、「SNS ノートおおさか」という情報モラル教材を作成し、活用を図っているところであり、今回の「ネット社会の歩き方」とともに活用した授業案などを各学校に提供しながら学校での情報モラル教育を進めていく予定としています。今後、活用が進む ICT 機器などを利用する一方で潜むモラルの問題、メディアリテラシーの獲得、セキュリティの担保などの各種問題を教職員並びに児童生徒が学び、主体的に活用できるような支援を教育委員会としてやっていきたいと考えています。
千葉県成田市教育委員会	三宅委員	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナーの内容について「参考になる」、教材について「活用できる」と、参加者全員が回答しました。後半の自作ペーパーサートの発表の時間に、次から次へと発表者が後を絶たない状態になったことや、「様々な資料を用意してくださり、とても参考になりました。また、すぐに指導に活かせそうなことが多く載っており、このようなサイトを紹介していただけたこともありがたいです。

栃木県真岡市教育委員会	和田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育について、基礎的な内容から、実践的な内容まで丁寧に御講演いただいたおかげで、参加した教職員の意識が高まり、各所属校に戻った後も、校内で情報共有や研修を実施できると考えている。今後も御紹介いただいた教材、指導法の周知や、社会情勢に合わせた必要性のある研修を実施していきたい。
大阪府豊中市教育委員会	藤村委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA スクール構想の概要や実践事例についてもお話しただけで、端末の活用を苦手とする受講者から「学んでいきたい」、「一歩踏み出そうと思った」というアンケートの回答があったので、今まであまり使っていなかった教職員の ICT 活用が進むのではないかと考えられる。また、無理なく端末の活用を進めている学校の取組み事例を市立学校に広め、端末の効果的な活用や情報モラル教育を進めていきたい。
山口県山陽小野田市教育委員会	藤村委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・成果としては、参加者たちの情報モラル教育の必要性についての意識改革ができたこと。また、実際にやってみようと思える具体的な手立てや教材を藤村先生にいただいたことで、多くの参加者が新学期始まって実践したいと事後アンケートに回答したことである。 ・今後の普及については、定例の校長会で本研修の内容や様子を伝え、各学校での取組を確認することと、進んでいない学校については学校長へ取組の依頼を行うこと。また、3学期に行われるの第4回 ICT 教育情報交換会で各学校の情報モラル教育の実践に関わる取組を持ち寄せ情報交換を行うことにしている。
佐賀県教育庁	榎本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・講演では、インターネット上での最新情報として、児童生徒を取り巻くネット社会の現状や、生成 AI、最近制定された法律などにも触れながら、教育現場での注意事項などを実際の事例を用いて具体的に説明していただいた。現在ネット上にありふれているフェイクニュースや、SNS により児童生徒の身に起こりうるトラブル、また、その際の大人目線での注意事項などについて説明していただいた。「子供を信じている保護者は多いが、子供の判断力を信じてはいけない」と言われた際には、大きく頷く参加者が見られた。また、「これから求められる情報モラル教育」についてや、実際に投稿された迷惑行為の画像を用いて話をされた際には、参加

		<p>者同士で意見を言い合い、解決策を話し合う様子も見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの指導については、各参加者が学校で情報モラル指導を行う際の、効果的な指導法を中心に話をしていただいた。新学習指導要領や国の方針を踏まえた話や、小学校・中学校・高等学校での「情報モラル」の取り扱いの変化を解説していただき、学校全体で継続した指導を行っていくことの重要性を再確認できた。 ・後半のワークショップでは、HRなどのわずかな時間を活用する場面を想定し、「10分間で情報モラルの授業をしよう」というテーマで、各参加者がそれぞれ動画教材を用いた模擬授業を考えた。参加者は、各々の学校や生徒の現状を想像しながら、生徒に見せたい動画教材を1つ選び、声掛けのタイミングや生徒への問いかけの仕方を考えた。その後、グループ内で自分が選んだ動画教材と、その後の展開を紹介し合った際には、どのグループも各々の学校の状況を紹介しながら、積極的に意見交換を行う様子が見られた。各グループからの発表の際には、他の先生方の指導方法について熱心にメモをとる参加者も見られた。 ・参加者からは、「動画教材が豊富で、生徒の発達段階に応じた指導がしやすい。」「同じグループの先生方の考えや、指導方法を具体的に聞くことができたことがよかった。」などの感想が聞かれた。 ・佐賀県では、県立学校において「情報モラル委員会」を設置し、年間指導計画に沿って各学校で組織的に情報モラル教育を実施している。また、教員対象の研修として、毎年本セミナーやオンデマンドによる研修を行っている。 ・現在、佐賀県では県立学校は1校1人以上の参加、小中学校は希望参加としているが、今後も多くの教職員へセミナーの参加を促したいと考えている。
長崎県雲仙市教育委員会	梶本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・前半の「ネット社会の歩き方」の講演では、研修テキストに沿って、ネット社会の現状、情報モラルの意義について説明があった。日々変化する高度情報化社会において、学校における情報モラル教育の必要性を見つめ直す機会となった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・後半のワークショップでは、パワーポイントで授業を想定した教材を作成した。参加者にとって初めての体験だったが、実際の授業をイメージしながら教材作成に熱心に取り組んでいた。自ら教材を開発するという経験は、今後の情報モラル教育に主体的に取り組む姿勢につながると感じた。 ・様々な場面を考え、教材にできるため、アウトプットする能力がものすごく高まると思います。小学生にとっては、自作することは難しいので、まずは教師自ら作成し、子供たちに提示できればと思います。 ・情報モラルについて自分自身が更に知識を深めていけるように、今回のような研修会には積極的に参加したいと思った。 ・情報モラルのペーパー教材の作り方を教えていただけて大変ありがたかったです。目の前にいる子どもたちが直面している課題にあった教材を作っていきたいと思いました。
鹿児島県屋久島町教育委員会	西田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の1時間程度は、主に情報モラル教育が必要となった背景についてプレゼンテーション資料に合わせ解説して頂く時間であったが、その内容のわかりやすさや的確さから参加者全員が非常に興味深く傾聴している様子であった。その後の2時間程度は事前に配布された紙媒体の教材やオンライン教材を用いて、授業のデモ体験を行った後、どのような教材が用意されていてどのように活用できそうかを考えるワークショップが実施された。 ・参加者からは「実際に行うワークショップが参考になった」という声や、「職員や保護者との研修の機会の中で情報共有を図りたい」といった好意的な反応が多かった。 ・町内全小中学校から最低1名以上の教員を参加させたことにより、全校が情報モラル教育の指導力を向上させるきっかけを作ることが出来た。今後もその重要性を周知するとともに当日のアーカイブ動画を町内教員向けに公開し、各学校が自発的に情報モラル指導力向上へ取り組む環境づくりを進める。 ・来年度以降も本セミナーを開催することにより、持続的に情報モラル教育の指導力を向上させる環境づくりを定着させ、町内教育機関全体の情報モラル向上を図る。

鹿児島県総合教育センター	梶本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・講演では、1人1台端末時代の情報モラル教育という視点で、ネット社会における留意点や現在の教育の情報化の状況等について詳しくお話いただき、具体的な内容まで知ることができました。また、情報モラル教育の意義を踏まえ、本セミナーの参加者の校種が様々であったことを考慮し、幅広く事例を取り上げていただきました。 ・後半のワークショップでは、イラスト教材であるペープサート教材を用いて実践的に演習を行いました。受講者が実際の場面を想定しながら、表情やコメントなどのストーリーを考え、スライドにまとめたものをクラスルームに投稿し、受講者同士で発表し合うことで日々の指導で気になることを意識しながら取り組むことができました。 ・まず指導者側が正しい知識を身につけることが必要不可欠であることを改めて感じました。今回紹介していただいたサイトを学級のLHRやPTAなどですぐに活用したいと思います。 ・すぐに授業で使える教材を紹介していただき、非常に参考になりました。また、情報モラルに関してペープサート教材を作り、楽しく研修することができました。 ・今回教えていただいたペープサート教材を積極的に授業等で活用していきたいです。 ・「ネット社会の歩き方」のサイトの紹介があり、生徒への支援・指導につなげられる教材がたくさんあったので、学校でも啓発していきたいです。 ・ワークショップでは、自分一人では思いつかないような視点を得たり、生徒目線で活動に取り組んだりすることで、学校で活用する場面を考えながら取り組みました ・今回のセミナー参加者は、情報教育のリーダーとなるべき人材育成を目的とした通年による継続研修（年間20回のインターバル研修）の受講者であることから、今後は参加者の所属校における還元研修として、今回の内容を行うようにします。 ・当教育センターの所員も参加していることから、本センターで実施する情報モラル教育等に関する講座などにおいて積極的に活用するとともに、各教科・領域及び生徒指導・教育相談等に関わる研修講座と関連付けながら、
--------------	------	---

		講座内容に取り入れていきたいと考えています。
栃木県総合教育センター	和田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くだけではなく、参加者同士意見交換を行う場面も適宜取り入れてくださり、全体的に積極的にセミナーに参加している様子が伺えた。また、資料を順に追うだけでなく、栃木の実態に応じて必要なところをピックアップして話してくださったので、自分事として受け止めるだけでなく、講師の先生の高い専門性や知見の深さに感銘を受けた。 ・情報モラル教育に関する県と市町の方向性を整えたり、資料の共有を行ったりしている。 (チャットルームなど、継続した意見交換の場を設けている) ・課題であった「学校生活のどの場面で指導するか」という点について、川崎市の「5分で分かる情報モラル教育」という資料を講師の先生からいただいたので、それを県内市町に共有して活用を促した。 ・県で作成した保護者向け情報モラル資料の内容について、今回のセミナーの内容を生かし、育成の先の「発揮」までを意識した資料になるよう再編集したい。
愛媛県西条市教育委員会	藤村委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・該当分野の第一人者であり、以前から様々なご指導をいただいている藤村先生にご講演いただけたのは大変有難かった。講演部分は、GIGAスクール構想の意義の説明から入り、前半は、1人1台端末を活用することが前提の情報モラルの在り方についての講義、後半は、講義内容を踏まえた教材の紹介や、これを利用したワークショップを実施した。 ・参加者には、今回のセミナーで得た知見を各校へ持ち帰って広く共有・活用していただき、1人1台端末を使うことが前提の情報モラルの在り方を今後も各校で広めていただくことが期待されるため、今後も定期的な研修を行うことで、児童・生徒への指導ノウハウの定着を図り、情報モラルに関する市内小・中学校全体の底上げを図って参りたい。

(3) 受講者へのアンケート

セミナー内容を改善するために受講者へ下記アンケートを実施した。

図表 1 2 受講者向けアンケートシート (おもて)

★マークのしかた



「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー アンケート

「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナーを受講いただきありがとうございます。ご意見・ご感想を聞かせてください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶしてご回答ください。
○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。
この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折りを付れたりしないように注意してください。

- (1) 【択一選択設問】 あなたの性別は？
 男 女
- (2) 【択一選択設問】 あなたの年齢は？
 20～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳 60～69歳 70歳以上
- (3) 【単一選択設問】 あなたの所属についてお伺いします。以下の項目から、あなたの所属に合うものを1つ選んでください。(1つにマーク)
 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 それ以外の学校
 行政 その他
- (4) 【単一選択設問】 あなたの職名についてお伺いします。以下の項目から、あなたの職名に合うものを1つ選んでください。(1つにマーク)
 校長 副校長 教頭 教諭 指導主事 その他
- (5) 【複数選択設問】 あなたの分掌分野についてお伺いします。あなたの分掌分野に合うものを選んでください。(複数回答可)
 教科指導 生徒指導 教務 情報教育 研修 その他
- (6) 【複数選択設問】 あなたの担当教科についてお伺いします。あなたの担当教科に合うものを選んでください。(複数回答可)
 小学校 情報 技術家庭 国語 社会 数学
 理科 英語 音楽 美術 書道 保健体育
 その他
- (7) 【単一選択設問】 これまで受履された研修についてお伺いします。過去に、今回のような情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがありますか。(1つにマーク)
 ある ない
- (8) 【単一選択設問】 これまでの情報モラル研修への関わり方についてお伺いします。過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがありますか。(1つにマーク)
 ある ない

→次ページに続く

1 / 2
情報モラルセミナー
アンケートシート
(2017年度)

図表 1 3 受講者向けアンケートシート（うら）

★マークのしかた



(9) 【複数選択設問】受講動機についてお伺いします。本セミナーへの受講動機として該当する項目の番号を選んで下さい。（複数回答可）

情報教育の担当をしているため 情報モラル指導のレベルアップのため

上司から受講の指示、勧めがあったため その他

(10) 【単一選択設問】セミナーの内容についてお伺いします。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に今回のセミナーが参考になると思うか、【参考度】をお答えください。（1つにマーク）

参考にならない あまり参考にならない やや参考になる 大変参考になる

(11) 【自由記述設問】今回のセミナー内容に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

(12) 【単一選択設問】セミナーの教材についてお伺いします。今後、みなさんが情報モラル研修会を実施する際に今回紹介した教材が活用できると思うか【活用度】をお答えください。（1つにマーク）

活用できない あまり活用できない やや活用できる 大変活用できる

(13) 【自由記述設問】今回ご紹介した教材に関してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

(14) 【単一選択設問】今回のセミナーで得られた情報の展開についてお伺いします。本セミナー以降に、校内などでセミナー、研修会など開催する予定はありますか。あなたの考えに合うものを1つ選んでください。（1つにマーク）

セミナー、研修会などの開催する 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい

セミナー、研修会など開催の予定はない その他

(15) 【自由記述設問】開催を計画、予定されるセミナーや研修会はどのようなものでしょうか、ご記入ください

(16) 【自由記述設問】最後に、全体を通してご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください

アンケートへのご協力ありがとうございました。

2 / 2
情報モラルセミナーアンケート
(2014年度)

1) 受講者プロフィール

セミナー受講者のプロフィールを図表 14 から 18 にまとめた。

① 性別年代別受講者数

どの年代においても、男性受講者の方が多い。年代別では、20、40 歳台が多かった。

図表 1 4 性別年代別受講者数 (単一選択)

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	無回答	合計
男性	109	115	90	46	12	0	0	372
	29%	31%	24%	12%	4%	0%	0%	
女性	51	45	37	25	4	0	0	162
	31%	28%	23%	15%	3%	0%	0%	
無回答	0	0	0	0	0	0	17	17
合計	160	160	127	71	16	0	17	551
	29%	29%	23%	13%	3%	0%	3%	100%

② 学校種別受講者数

全国の学校種別の教員の人数が、小学校：中学校：高等学校＝3：2：1であることを鑑みると、小学校の教員の受講比率が大きくなってきている。また、無回答も増えている。

図表 1 5 学校種別受講者数 (単一選択)

学校					行政	その他	無回答	合計
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他の学校				
277	137	48	2	2	62	6	16	550
50%	25%	9%	0%	0%	11%	1%	4%	100%

③ 役職別受講者数

一部の熱心な校長先生が受講されているが、通年では教諭が圧倒的に多い。その他は、行政職か ICT 支援員である。

図表 1 6 役職別受講者数 (単一選択)

校長	副校長	教頭	教諭	指導主事	その他	無回答	合計
6	0	13	415	65	44	7	550
1%	0%	2%	76%	12%	8%	1%	100%

③ 分掌分野別受講者数

勤務校で情報教育を担当されている先生が多いが、2020年4月から新学習指導要領の全面实施となったことと GIGA スクール構想のため、「生徒指導」担当の先生も多い。また、その他が多いのは学校運営管理業務や行政職と予測される。

図表 1 7 分掌分野別受講者数 (複数選択)

教科指導	生徒指導	教務	情報教育	研修	その他	合計
152	188	85	237	72	116	850
17%	22%	10%	28%	9%	14%	

⑤ 担当教科別受講者数

担当教科別に特に偏りは無い。

その他は、管理職もしくは行政職・ICT 支援員と予測される。

図表 1 8 担当教科別受講者数 (複数選択)

小学校	情報	技家	国語	社会	数学	理科
265	32	20	16	41	57	53
英語	音楽	美術	書道	保健体育	その他	合計
25	9	6	2	20	59	596

2) 受講者のこれまでの情報モラル研修との関わり

セミナー受講者のこれまでの情報モラル研修との関わりを図表 19 から 21 にまとめた。

① 過去の受講経験

過去に情報モラル研修を受講したことの無い先生の方が多かった。

図表 19 過去に、情報モラル指導者を養成する研修会に参加したことがあるか（単一選択）

ある	ない	無回答	合計
227	306	18	551
42%	55%	3%	

② 過去の講師経験

過去に情報モラル研修を企画したことが無い先生の方が多かった。

図表 20 過去に、情報モラルに関連したセミナー・研修の企画や講師を行ったことがあるか（単一選択）

ある	ない	無回答	合計
63	465	22	550
12%	84%	4%	

③ 本セミナーの受講動機

「上司からの指示」の割合は少なくなっているが、積極的に受講されている先生は少ないと思われる。その他は悉皆研修となっているセミナーの参加者と予測される。

図表 2 1 本セミナーの受講動機（単一選択）

1：情報教育の担当をしているため	252	38%
2：情報モラル指導のレベルアップのため	200	30%
3：上司からの指示があったため	152	23%
4：その他	60	9%
回答数	664	

3) 本セミナーに対する評価

セミナー受講者のセミナー評価を図表 22 から 23 にまとめた。

① 本セミナーは、今後の情報モラル研修会実施上の参考になるか。

80% の受講者が有用と考えている。

図表 2 2 本セミナーの有用度（単一選択）

参考にならない <<<<<< 参考になる			
1	2	3	4
14	2	100	406
3%	0%	19%	78%
		3or4 の回答比率	
		97%	

② 本セミナーで利用した教材は、今後の情報モラル研修会に活用できるか。

96% の受講者が教材を活用できると考えている。

図表 2 3 本セミナー教材の有用度（単一選択）

活用できない <<<<<< 活用できる			
1	2	3	4
3	1	116	392
1%	0%	22%	77%
		3or4 の回答比率	
		99%	

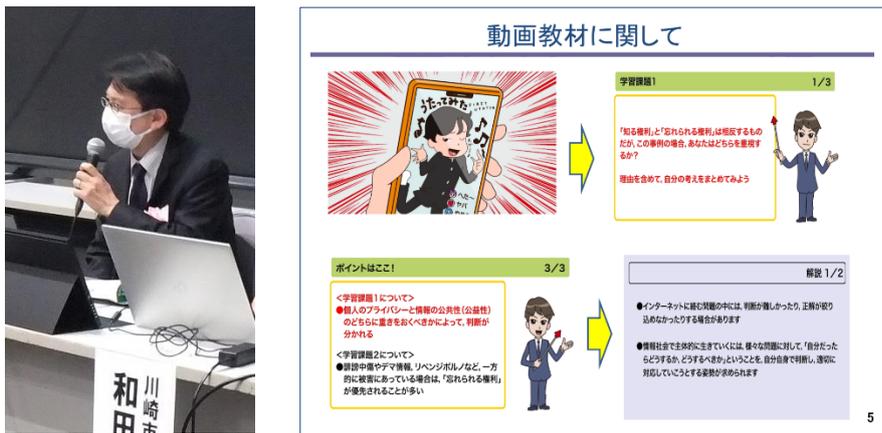
4) 今後のセミナー開催予定

セミナーの開催を具体的に考えている先生が少ないことは今後の課題と考えている。

図表 2 4 今後のセミナー開催予定（単一選択）

1. セミナー、研修会などの開催する	66	13%
2. 現時点で予定はないが、可能な規模・内容で計画したい	268	52%
3. セミナー、研修会など開催の予定はない	159	30%
4. その他	27	5%
回答数	520	

図表 3 3 パネルディスカッションの様子（三宅委員）



図表 3 4 パネルディスカッションの様子（和田委員）



図表 3 5 パネルディスカッションの様子（会場の様子：前方から）



図表 3 6 パネルディスカッションの様子（会場の様子：後方から）



5. 今年度作成したコンテンツの概要

(1) 新規学習ユニット10テーマ+改変3テーマ

アニメーションで様々な事象を確認しながら、情報モラルについて学習できるようになっている。

① GIGA端末で学習するとトラブルが？インターネットの特性を知ろう！

<校種>

小中高

<教科>

学級活動・道徳・総合・すべての教科

<学習内容>



GIGA端末を活用する学習過程で起こるトラブルから、情報活用能力の育成に重要である情報の科学的理解につながるインターネットの特性等を学ぶ。

② 「押し活」「投げ銭」やり過ぎに注意！

<校種>

小中高+保護者

<教科>

ホームルーム・総合・技術家庭・情報

<学習内容>



「押し活」や「投げ銭」によるトラブルを知り、止められない気持ちを自分達で調べたり考えたりして理解を深める。

③ うまい話は危険！闇バイトの罠

<校種>

小中高

<教科>

学級活動・情報・総合



<学習内容>

闇バイトの手口や危険性を知り，犯罪行為に手を染めないように知識をつける。

④ 生成AIって万能？

<校種>

小中高

<教科>

ホームルーム・道徳・情報・社会・国語

<学習内容>

生成 AI の適切な活用と不適切な活用，そしてファクトチェック（真偽検証）の重要性について考える。



⑤ え？フリーじゃなかったの！？利用規約は必ず読もう！

<校種>

小中高

<教科>

学級活動・生徒会活動・児童会活動・総合・生活

<学習内容>

インターネット上の著作物を利用するときには，利用規約を確認する必要性を知る。



⑥ 怪しいポップアップメッセージ

<校種>

小中高

<教科>

特別活動・総合

<学習内容>

インターネットを利用している時に，注意喚起のようなポップアップメッセージが出た時に，どのような対応をとればいいのかを知る。



⑦ 「非公開」のはずなのに

<校種>

中高

<教科>

学級活動・総合

<学習内容>



SNS上で非公開にしていたにも関わらず、外部に情報が流出してしまった事例を通して、非公開でも決して安全ではないことを学ぶ。また、たとえ流出しても大きな問題とならない情報発信を身につける。

⑧ AIが生み出すニセ情報

<校種>

小中高

<教科>

学級活動・総合・情報

<学習内容>



生成AIの技術によって、偽情報の発信や著作権侵害などを引き起こすおそれがある。悪用せず正しい目的のために正しく使う判断力を養う。

⑨ 誤解？切り取り？何を書いても炎上？

<校種>

小中校

<教科>

ホームルーム・道徳・情報・社会・国語家庭

<学習内容>



悪意を持って炎上させる人たちの手口を知ってコミュニケーションの難しさを学ぶ。

⑩ペープサートでオリジナル情報モラル教材をつくろう！

<校種>

幼小中高

<教科>

学級活動・生徒会活動・児童会活動・総合・生活

<学習内容>

イラスト教材（<http://www2.japet.or.jp/net-walk/illustr/index.html>）の中のペープサート教材を使うことで、子どもたちの実態にあった情報モラルの授業をデザインできることを学ぶ。



<改変3テーマ>

⑪ 個人情報公開しない

<校種>

小中高

<教科>

学級活動・道徳・総合・生活・技術家庭

<学習内容>

ホームページや電子掲示板、チャットなどで個人情報を公開することでの問題点や危険性を知り、その取り扱い方を学ぶ。



⑫ ネットいじめは人権侵害

<校種>

小中高

<教科>

学級活動・道徳・総合

<学習内容>

他人の悪口等をネット上に流す行為の影響の大きさを理解し、発信した情報が他人に二次利用される可能性があることや、取り返すことは不可能であることを知る。



⑬ Webサイトの情報を活用しよう

<校種>

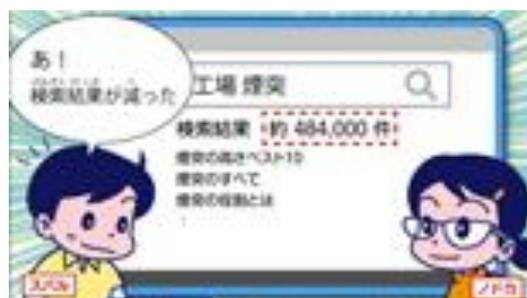
小中高

<教科>

特別活動・社会・地理歴史・すべての教科

<学習内容>

検索サイトの種類や信頼できる情報の探し方を知る。



● 幼児向けペーパーサート教材

キャラクターや背景などのイラスト素材を用いて「ネット社会の歩き方」に関する道徳教材を作成できるキット。

幼児向けの様々なかわいい素材を用意しております。切り絵、プレゼンテーションソフト両方で利用できる。



● やってみよう！コンセンサスゲーム

ある事柄や問題に対して、「どうやってグループのメンバーと合意形成していくか」ということを目的としたゲーム。

他人の意見を聴くこと、自分の意見を正しく伝えることの大切さ、そして、意見を取りまとめることの難しさを知ることを学ぶことができる。



6. まとめ

近年のICT機器の進展は目覚ましく、個々のハードウェアやソフトウェアに対応した情報モラル教育は事実上不可能になっている。学校教育でよく言われる「流行と不易」を、教える側が良く考え取り組む必要がある。

スマートフォン、携帯ゲーム機の普及により、平易にいつでもどこでもインターネットを利用できる環境が子どもたちに急速に拡大した。それらの変化により誹謗中傷や言葉不足からのいじめ、ネット犯罪の被害や更に加害者となる事例、生活に支障をきたすまでのネット利用などの事例が更に深刻化した。今回の事業は、子どもたちに有効な情報モラル指導を実施させ、充実したコミュニケーションを取れるための指導を行い、更にネット依存の手前で立ち止まるための指導を行えるための対策とした事業を実施した。

ここにおいて、公益財団法人JK Aの補助金を原資として、日本教育情報化振興会が情報モラル指導の教材開発と教員向けセミナーを開催することは非常に社会的に価値があると考えている。文部科学省の学習指導要領に基づいた「不易」の部分に関する指導方法の研修と、マスコミへの掲載記事に基づいた「流行」の部分に関する最新の事故、事件、リスク回避方策の伝達は、日々児童・生徒と接している教員にとって指導時の参考になっている。

日本教育情報化振興会では、「不易」な面での道徳を中心とする「心を磨く」領域の教材提供に特に力を入れていきたい。一方で、「流行」の面では情報を中心とする「情報の知識」「情報の理解」領域の教材提供に力を入れていきたい。来年度は、教員向けセミナーの開催（28ヶ所）と新しい問題や事件に対応した学習教材の開発を予定している。教育委員会よりセミナーの開催数の増加の要望もきているため、できる範囲で対応していきたいと考えている。

また、新規開発予定の教材の特徴については、以下の通りである。

- ① 動画ユニット教材新規開発（10本）＋改変（3本）
- ② 指導者用情報モラル教育研修用動画教材（小学校用・中学高校用×2本：4本 10分程度）
- ③ 教材カタログ（A4折込・裏表・カラー）

最後に、少しでも多くの教員が情報モラル指導を実践できるよう、日本教育情報化振興会および委員全員が啓蒙活動に邁進する所存である。

以上

第2章

コミュニケーション力育成のための事業

1. 事業の目的

2020年度から全面実施された小学校学習指導要領では、情報活用能力が言語能力に並ぶ「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。また、中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）において、「情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のこと」としている。

本委員会では、現場の先生方が子どもたちの情報活用能力を育成する学習を行うために、2020年度に、授業の構想及び実践に資する学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標を開発し、それを「情報活用能力ベーシック」と名づけた。「情報活用能力ベーシック」は、学習指導要領をはじめ、文部科学省が公開している関連文書を対象に、「情報活用能力ベーシック」に適合するキーワードを抜き出し、整理したものである。

この指導指標である「情報活用能力ベーシック」を学校現場で活用してもらい、普及することを本事業の目的とした。

2020年度に、授業の構想及び実践に資する学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標「情報活用能力ベーシック」を開発。「授業づくりに小学校版「情報活用能力ベーシック」を活用してみよう」というパンフレットでまとめた。

2021年度は、「情報活用能力ベーシック」を、小学校の教科における低中高別に整理したものも含め、学校現場の先生方がより活用しやすいかたちにまとめた「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」を製作。

また、模擬授業については、この情報活用能力ベーシックに基づき、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできる模擬授業として開発した。

2022年度は、「情報活用能力ベーシック」を、中学校の教科において整理したものも含め、学校現場の先生方がより活用しやすいかたちにまとめた「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック中学校版」を製作。

また、模擬授業については、この情報活用能力ベーシックに基づき、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできる模擬授業として開発した。

2023年度は、情報活用能力ベーシックを活用した実践事例を、単元という形でまとめ、学校現場の先生方に、より授業の実践内容が伝わるように製作したものが、「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」である。

今後は、2023年度までに製作した以下の4種類の制作物を活用し、様々な地域やイベントで広く模擬授業を実施していく予定である。さらに、授業で活用されることを期待する。

1. 「授業づくりに小学校版「情報活用能力ベーシック」を活用してみよう」
2. 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」
3. 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック中学校版」
4. 「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」

本委員会は、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の教育情報化振興会が一丸と

なって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願う。

2. 作業項目とスケジュール／作業体制

(1) 作業項目とスケジュール

作業項目とスケジュールは下記の通りである。

図表1 作業スケジュール

作業項目	2023年										2024年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
委員会・WG開催		▼①				▼①WG				▼②WG			
		7				14				12			
教科別能力表開発	▲-----												
セミナー開催					▼①		▼②		▼③④	▼⑤		▼⑥	
					3, 4		29		9, 27	27		15, 16	
					大阪		青森	千葉	高知	沖縄		東京	
授業研究学校 訪問													
冊子教材制作	▲-----▼												

(2) 委員会の設置

本事業では有識者で構成する「情報活用能力育成検討委員会」を組織して作業に取り組んだ。全3回の委員会と2回のWG会議を計画し、作業スケジュールの策定、情報活用能力に関する能力表作成の検討及び作成等、本事業の全体を管理した。

また、情報活用能力に関する能力表の冊子教材の実作業、セミナー開催準備等は事務局が担当した。

図表2 委員一覧

所属	役職及び氏名
放送大学※	教授 中川 一史（委員長）*
茨城大学※	准教授 小林 祐紀（副委員長）*
放送大学※	客員教授 佐藤 幸江*
東北学院大学文学部	教授 稲垣 忠
熊本大学大学院教育学研究科	特任教授 前田 康裕*
船橋市立宮本小学校	校長 秋元 大輔
札幌国際大学	教授 岩崎 有朋

柏市立大津ヶ丘第一小学校	校長	佐和 伸明
金沢学院大学文学部教育学科	元専任講師	山口 眞希
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校	教諭	岡本 光司
浜松市教育委員会	指導主事	菊地 寛
桐蔭学園高等学校・中等教育学校	教諭	郡司 直孝
熊本市教育委員会 総合支援課 学校サポート班	指導主事	宮津 光太郎
北海道教育大学附属函館中学校	教諭	有金 大輔
船橋市立若松小学校	教諭	渡辺 拓也

(注) ※：WGメンバー

図表3 事務局等の体制

所属	役職及び氏名	役割
一般社団法人日本教育情報化振興会	常務理事・事務局長 中沢 研也	責任者
同上	事務局次長・調査研究開発部 部長 吉田 真和	総括・セミナー対応
同上	普及促進部 担当部長 渡邊 浩美	連絡窓口・全体企画・運営・セミナー対応

(3) 委員会開催

委員会開催の他、メールによる検討・決議を行った。委員会の開催日、議題は下記の通りである。

図表4 委員会開催実績(全日程オンライン開催)

開催回数	開催日	議題
第1回	2023.5.7	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動方針（中川委員長） ・予算化の活動について（事務局渡辺） ・「情報活用能力ベーシック」実践事例集（理論編＋事例）について ・「情報活用能力ベーシックを活用した校内研修パッケージ」の開発 ・「模擬授業」を含んだワークショップ研修の企画内容の検討について ・「情報活用能力ベーシック」の評価 ・情報活用能力育成のための教員研修パッケージ開発について ・セミナーの実施について ・全体スケジュールについて

第1回 WG	2023. 9. 14	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度制作物について検討 ・制作スケジュールについて ・原稿執筆担当について ・2023年度単独開催セミナープログラム検討 <ul style="list-style-type: none"> (1) 開催地及びご登壇者について (2) 各セミナープログラムと時間について (3) タイムスケジュールについて (4) 集客 (5) 旅費精算等についての事務手続き等について
第2回 WG	2024. 1. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度制作物「実践事例集」構成ページの体裁、原稿内容最終検討及び製作スケジュールについて ・各ページの原稿収集状況 ・制作スケジュールについて

3. 「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」

2020年度に、学習プロセスに情報活用能力を位置づけた指導指標である「情報活用能力ベーシック（小学校）」を開発し、2021年度は「情報活用能力ベーシック（小学校）」を活用した「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（小学校編）」を制作した。2022年度は「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（中学校編）」を制作した。

2023年度は、情報活用能力ベーシックを活用した実践事例を、単元という形でまとめ、学校現場の先生方に、より授業の実践内容が伝わるように製作したものである。

以下の4つの柱となる。

- (1) 情報活用能力ベーシックのこれまで
- (2) 広がる情報活用能力ベーシックの活用
- (3) 実践事例の歩き方～事例の見方・使い方
- (4) 小学校実践事例6事例、中学校実践事例3事例



図表5 1ページ 表紙 JKA補助事業マークを掲載

目次

はじめに	3
情報活用能力ベーシックのこれまで	4
広がる情報活用能力ベーシックの活用	5
実践事例の歩き方	6
<小学校>	
第1学年 生活科「なつがやってきた」<課題の設定>	8
第3学年 国語「生き物のとくちょうをくらべて書こう」<情報の収集>	12
第4学年 理科「電池のはたらき」<情報の収集>	16
第5学年 算数「図形の角」<整理・分析>	20
第6学年 社会「世界に歩み出した日本」<まとめ・表現>	24
第6学年 家庭科「こんだてを工夫して」<振り返り・改善>	28
<中学校>	
第2学年 社会・地理的分野「日本の様々な地域」<情報の収集>	32
第2学年 数学「三角形と四角形」<まとめ・表現>	36
第3学年 理科「自然と人間」<整理・分析>	40

はじめに

まさに情報活用能力の「ベーシック」です

学習指導要領では、学習の基礎となる資質・能力の1つとして情報活用能力が位置付けられました。そのため、様々な情報活用能力に関する表や整理が出ていますが、「分かりにくい」「使いにくい」という声をよく聞きます。このことは、例えば細かく体系表を作り込んでいながら全てを網羅しなくてはならないということになり、1つ1つをクリアすることが目的化してしまっていることも原因の1つと考えられます。また、自治体や研究会が作成しているものが乱立していて、「振り所がわからない」という声も少なくありません。そこで、基本となる体系の整理・提案を行う委員会を発足しました。同時に、情報活用能力調査を行い、実態を把握しました。その結果も盛り込みながら、「情報活用能力ベーシック」という指導指標を開発し、模擬授業の実施等を行うことにしました。

本委員会では、授業の構想及び実践に資する学習のプロセスに情報活用能力を位置づけ、基本的な学習展開を示した指導指標を開発し、それを「情報活用能力ベーシック」と名づけました。「情報活用能力ベーシック」は、学習指導要領をはじめ、文部科学省が公開している関連文書を対象に、情報活用能力に適合するキーワードを抜き出し、整理し、探究的な学びに沿って基本的な学習展開を示したものです。

これまでに、小学校版情報活用能力ベーシック、中学校版情報活用能力ベーシックを発行してきました。そして今回、これまで開発してきた情報活用能力ベーシックをもとに、小林委員長をはじめ委員や外部の協力のもと、実践事例集にまとめました。小学校6事例、中学校3事例が掲載されており、授業を構想し実践する際により活用しやすくなったかと思えます。授業で活用されることを期待します。

本委員会では、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の（一社）日本教育情報化振興会が一丸となって事業を進めてきました。この事例集や取組が、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願ってやみません。

情報活用能力育成調査研究委員会委員長 中川一史（放送大学教授）

図表6 2～3ページ 目次及びはじめに

(1) 情報活用能力ベーシックのこれまで

情報活用能力ベーシックのこれまで

2020年9月に本委員会では、全面実施された小学校学習指導要領を対象にして、探究的な学びの5つの学習プロセス（【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】【振り返り・改善】）及び13のキーワード（発見・収集・整理・比較・処理・統計・形成・発信・伝達・表現・創造・振り返り・改善）から構成される「情報活用能力ベーシック」を開発しました。

次いで2021年3月には「情報活用能力ベーシック」をもとに、5つの学習プロセスに基本的な授業展開を添付した「小学校各教科版情報活用能力ベーシック」を公開しました。作成にあたっては、①情報活用能力ベーシックを構成する13のキーワードの1つ1つを用いて、各教科の学習指導要領解説の既述状況を確認し、②国語へ特別活動までの各教科において、5つの学習プロセスに沿って基本的な授業展開を示しました。文字通り「ベーシック」ですので、学校・学年の実態に応じて活用されることを期待し、リーフレットを発行及び本委員会のWebサイトにて公開しました。

そして2021年12月には、国語と算数では低・中・高学年版、社会と理科では中・高学年版を作成しました。加えて、具体的な授業事例を追加する形で「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（小学校編）」を発行・Webサイトで公開しました。

さらに2022年11月には、中学校版情報活用能力ベーシックを作成し、「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック（中学校編）」を発行・Webサイトで公開しました。情報活用能力ベーシックの最大の強みは、学習指導要領を振り所としていることです。県レベルで採用する自治体や、学校研究の推進に取り入れるところが増えています。

そしてこのたび、ご要望が多かった「情報活用能力ベーシック」を用いた実践事例集を多くの方の協力を得て作成することができました。小学校6事例、中学校3事例です。具体が示された事例集からは、授業づくりの詳細を確認することができます。ぜひ、これからの授業づくりの参考になるはずです。

情報活用能力育成調査研究委員会委員長 小林祐紀（茨城大学准教授）

5つの学習プロセスと13のキーワード

図表7 4ページ 情報活用能力ベーシックのこれまで

(4) 小学校実践事例 6 事例、中学校実践事例 3 事例

小学校 1 年生活科実践事例

小学校 1 年 生活科

なつがやってきた

① 単元及び単元目標

- 単元名：なつがやってきた
- 単元目標：夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を発見し、身近な自然の様子や自然を使った遊びの面白さに気づくとともに、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しくしようとするができるようになる。

② 指導計画 (全 14 時間)

学習プロセス	① 課題の設定 ・発見	② 情報の収集 ・収集
時 数	1~2	3~6
教科別 情報活用能力 ページック	身の回りの日常の事象から様子や特徴を発見する。	目的を明確にしながら調べたり体験したりして収集する。
学習活動と内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活の中で見つけた夏の自然を発表し、春と比べてどのように変わったか予想をする。 ○ 夏の自然の変化を観察カードに記録し、全体で共有する。 ◆ 観察カードには、観察する視点を明記し共有するようにする。 ○ みんなでしてみたい夏の自然に関わる活動を出し合い、夏の自然の特徴を生かした遊びを見つけ、「夏遊び発表会」で伝え合うというゴールを設定する。 ◆ 五感を使って自然と関わり、週末で写真を撮り記録するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校庭の虫や草花を見つけて観察したり、自然を利用して遊んだりいろいろな遊びを楽しむ。 ◆ 校庭だけでなく、場所を広げて近くの公園で草花や虫を探したり、水を使った遊びをしたりするようにする。 ○ 夏にしかできない遊びを観察カードに記録し、全体で共有する。 ◆ 遊びの様子を週末で写真を撮り、記録を残すようにする。

8

小学校 1 年生活科実践事例

① 課題の設定 ・発見

② 情報活用能力育成を目指す単元づくりのポイント

「夏の遊び発表会で一番楽しかった遊びを紹介する」という単元のゴールを設定することで、相手意識や目的意識をもって情報の収集、整理・分析、まとめ・表現という学習プロセスに取り組みできるようにする。また、観察カードを活用することで、情報収集の際に自分なりの視点をもって情報を収集できるようにする。

	③ 整理・分析 ・整理・処理 ・比較・統計	④ まとめ・表現 ・形成・表現 ・発信・創造 ・伝達	⑤ 振り返り・改善 ・振り返り・改善
時 数	7~8	9~13	14
教科別 情報活用能力 ページック	自分や身の回りの自然の変化や成長の様子を比較する。	伝える相手や伝える目的を明確にしながら様々な方法で発信する。自分自身や自分の生活について考え、表現したり肩に動かさけてより良くしようと思ったりする。	自分自身の生活や成長を振り返る。
学習活動と内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊び方や体験を通して見つけた自然の色や形の特徴を生かした遊びを考え、その遊びのコツを整理する。 ○ 遊びを工夫したり、簡単なおもちゃをつくらせて、友だちと楽しく遊ぶ。 ◆ 友達と遊びながら発する言葉を拾い上げ、自然のものを使った遊びの工夫や友達と一緒に遊ぶことの楽しさに気づかせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験した夏の遊びの中から一番楽しかった遊びを「夏の遊び発表会」で紹介する。(個人) ◆ 紹介の仕方を自分で調べせるようにする。 例：実物を見せる、写真や動画を電子黒板で見せる、絵を描いて見せる等 ◆ 発表の評価基準は、事前に提示しておく。(話し方(国語科)・紹介の内容(生活科)) 部分的に、児童と評価基準を考える。 ○ 発表の練習では、個人練習→友達と練習の2回に分ける。 ◆ 練習の仕方は児童自ら決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どのような遊びをしたのか、みんなを選んでみてどのような感想をもったのか、みんなでも共有する。 ○ 単元を通して、自分ができるようになったことやわかったことを振り返る。 ◆ 夏の遊び発表会の自己評価を提示していた評価基準をもとに行う。

9

小学校 1 年生活科実践事例

④ 本時の目標 (第 1 時～第 2 時)

校庭の動植物や風、光の特徴など、校庭の自然の様子を観察し、遠くを眺めて夏の動植物や自然と関わり、その特徴に気づくことができる。

⑤ 本時における情報活用能力ページックのキーワードについて

本時は「②課題の設定」という位置づけで、身の回りの様子を観察し、夏の特徴に気づくという学習展開である。観察カードを活用し、様々な視点で観察を行うことができるようにする。また、気づいた特徴を週末で撮影し、その写真をもとに交流をする中で、課題の設定につながるようにする。

⑥ 本時の展開

主な学習活動と内容 (○)	指導上の留意点 (★)
1. (全体) 春の校庭の自然の様子を振り返り、今の校庭の様子と比べ、変わってきていることに気づく。 ○ 春に撮影した写真や動画との比較による気づき	★ 児童の発言をもとに、写真や動画を提示しながら、振り返らせる。 ★ 「暑くなった」「セミが鳴いている」などの意見をとり上げ、生活の中で既に感じていることから春との違いに興味を持たせ、めあてにつなげる。
春の校庭の自然の様子と違うところを探そう!	
2. (個) 校庭で、虫や草花などの動植物を見つけ、写真を撮ったり見つけた自然を利用して遊んだりする。 ○ 五感を通しての関わり	★ 観察カードを配布し、「目・耳・鼻・手・心」を使って動植物や自然と関わりようにする。 (例) 目「形、色、太さ、長さ等」 手「触った感じ ツルツル等」 ★ 見つけた夏の草花や虫などを週末で撮影し、体験後に見つけたものや感じたことを振り返ることができるようにする。そこから、「もっとたくさんの夏の自然を感じたい」「夏の自然をもっと楽しみたい」という思いが高まるようにする。



10

小学校 1 年生活科実践事例

主な学習活動と内容 (○)	指導上の留意点 (★)
3. (ペア) 見つけた動植物や自然の様子、自然を生かした遊びで気づいたことを、写真を見せながら伝え合う。 ○ それぞれの見方や感じ方を伝える。 「楽しかった」「見つけたこと」「思ったこと」「感じたこと」	★ 写真をお互いに見せ合い、観察カードをもとに、様々な視点で伝えるようにする。 ★ 単元始末の「表現」の時間に行う「夏の遊び発表会」で活用できるように、校庭で見つけたものの写真を検閲ツールで提出させる。検閲ツールは、様々な時間で活用し、操作に慣れさせておく必要がある。 ★ 本時の振り返りが「夏の遊び発表会」につながるように、学習シートに「遊びのコツ」「感じたこと」を書くようにする。
4. (個) 校庭で見つけた虫や草花、遊んだことについて、学習シートに文庫と絵でまとめる。 ○ 形や色、におい、音、感じたことなど遠くを眺めて自然と関わりようにする。	
5. (個) 学習シートをもとに、春と夏の自然の違いに気づき、「夏の自然の特徴を生かしてもっと遊びたい」という思いをもち、「夏の遊び発表会」で自分が楽しかった遊びを紹介するという意欲を高める。 ○ 春とは違った遊びができることを共有 ○ もっと工夫して遊びたいという思い	★ 公園で遊んだ経験を聞いたり、「思いから、水遊びがしたい」という日常の中の児童の発言を取り上げたりして、「もっと遊びたい」という思いにつなげる。

※本事例の執筆にあたっては、市前調理教諭(熊本市立城南小学校)の協力を得ました。

11

図表 10 8～11 ページ 小学校 1 年生 生活科 事例

中学校 2 年 社会・地理的分野実践事例

中学校 2 年 社会・地理的分野

日本の様々な地域
(2)日本の地域的特色と地域区分

① 単元及び単元目標

- 単元名：日本の様々な地域 (2)日本の地域的特色と地域区分
- 単元目標：日本の自然環境や人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信など日本の地域的特色を理解するとともに、それらを関連付けて多面的・多角的に考察・表現し、よりよい社会の実現を視野に見られる課題を主体的に追究する。

② 指導計画 (全 11 時間)

学習プロセス	1 課題の設定 ・発見	2 情報の収集 ・収集
時数	1	2~9
教科別 情報活用能力 パースニック	社会的事象に見られる課題を発見する。	観察や野外調査、配器調査等の様々な調査や、年表や地図、文獻、図表、写真、統計資料、実物等の諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を適切かつ効果的に収集する。
学習活動と内容	○ 学習課題「地理的な視点から見ると、日本はどのような国であると言えるか?」に対して考えを文書にする。 ◆ 自然環境や気候などに定めた分野に属した視点からの記述や、事象を関連付けていない記述が多くなることを想定されるため、教師はその点を留意しながら個々の学びを見守るようにする。	※日本の地域的特色を捉える8つの視点それぞれ1単位時間で取り扱う授業デザインとする。2~9時間目は、以下のように同じような流れで実施する。8つの視点は、地形①(山地・山脈・河川)、地形②(平地・海)、気候、自然災害と防災、人口、資源・エネルギー、産業、交通網・情報通信網で構成する。

32

中学校 2 年 社会・地理的分野実践事例

2 情報の収集・収集

② 情報活用能力育成を目指す単元づくりのポイント

本単元は、我が国の国土の地域的特色や区分された地域の地域的特色について、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信という視点から多面的・多角的に考察し、表現する。とくに地域的特色の根拠となる資料を示しながら概要を論述することに重点を置く。この過程では、学習者が選択したさまざまな情報源から、適切な資料を収集する力を育むことを目指している。これは情報活用能力パースニックの5つの学習プロセスである情報の収集に重なる。

3 整理・分析 ・整理 ・処理 ・比較 ・統計	4 まとめ・表現 ・形成 ・表現 ・発信 ・創造	5 振り返り・改善 ・振り返り ・改善
各分野の特色に応じて、提示された課題(問い)や生徒の課題意識から、時系列に沿った整理や地理的な条件から整理する。また、比較・分類したり統合したり、他の社会的事象と関連付けたり、多面的・多角的に考察する。	各分野の特色に応じて、事象を説明したり、論拠を基に自分の解釈を加え説明・論述したり、議論や意見交換したりする。また、合意形成や社会参加を視野に入れながら、構想したことについて、妥当性や効果、実現可能性等を踏まえて表現する。	学習内容・活用に応じた振り返りを行い、学習成果を基にしてこれからの国家及び社会の発展について考える。また、自らの学習の進め方や学習成果を改善したりする。
○ その単位時間で取り扱う視点に関する授業者からの説明を聞く。 ○ その時間で取り扱う視点に関する説明文(100文字以上 200文字以下)を作成する。(個人) ○ 説明文に添えるの(ふさわしい)資料(図表・画像等)を Web から見出し、その資料の URL をアンケートアプリで収集する。(個人) ○ メンバーそれぞれが作成した説明文と収集した資料を共有して、その適切さを議論し、検討する。(グループ)	○ 学習課題に対する論述(500文字以上 600文字以下)を行うとともに、論述に添える資料を選択する。(個人) ○ それぞれが作成した論述文と資料を説明し合いながら、その論述文と資料の正確さ、適切さ、わかりやすさを評価し合う。(グループ) ○ グループでの評価に基づいて、個人で論述文と資料を改善する。(個人) ○ 本単元の学びによって高まった資質・能力や、本単元による学びの成果をアンケートアプリで論述し、振り返る。(個人)	10~11

33

中学校 2 年 社会・地理的分野実践事例

④ 本時の目標 (第3時)

我が国の気候の特色について、論理的に説明するとともに、我が国の気候の特色の説明に添えるの(ふさわしい(具体的に表す、根拠を与える、補足する)資料(図表や画像等)を適切な方法で収集し、選択する。

⑤ 本時における情報活用能力パースニックのキーワードについて

情報を収集する際には、収集する目的と方法を限定することによって、意図的な資質・能力の育成を図ることができる。本時では、「自らの説明文に添えるの(ふさわしい)資料を収集する」という目的と、「Web から収集する」という方法に限定している。とくに方法については、学習者が自らの判断で方法・手段を選択することができるように、さまざまな方法を系統的に取り入れる必要がある。

⑥ 本時の展開

主な学習活動と内容 (○)	指導上の留意点 (★)
1. 本時の展開の見通しをもつ。 授業者による説明→個人での説明文の作成→説明文に添える資料の収集→グループでの議論	・ 前時までの「地形①(山地・山脈・河川)」「地形②(平地・海)」と同じ展開であることを示し、具体的な展開も改めて示す。
我が国の気候はどのような特色があるか?	
2. (個) 我が国の気候について、授業者による説明を聞く。 ○ 我が国の気候に関する特色	・ 説明を聞く際には、3において学習者が気候に関する特色を説明する学習活動に取り組むことを見通して、メモを取ったりプロットを構想するなど工夫したりして聞くように促す。 ・ 授業者による説明は簡潔に行う。
3. (個) 気候に関する説明文(100文字以上 200文字以内)を作成する。	★ 主に教科書の記述や授業者による説明を参考にしよう指示する。
4. (個) 説明文に添えるの(ふさわしい)資料(図表・画像等)を Web から収集し、アンケートアプリに入力する。	★ 当該の資料が掲載されている web ページにアクセスできる URL をコピーして入力(貼り付け)するように指示する。 ★ Web からの情報の収集では、URL の正確な表記が必要であることを説明する。 ★ できるだけ複数の資料を収集するように促す。

34

中学校 2 年 社会・地理的分野実践事例

主な学習活動と内容 (○)	指導上の留意点 (★)
5. (4人1組のグループによる協働) グループのメンバーに対して、自分がその資料を収集(選択)した理由について、自分が作成した説明文と併せて説明する。	○ メンバーそれぞれが入力した URL は、アンケートアプリの入力結果が集約される表計算アプリで共有する。(URL はハイパーリンクが設定されていると説明している。)
6. (4人1組のグループによる協働) メンバーそれぞれが収集した資料のふさわしさについて議論し、検討する。	★ 「ふさわしさ」については、「説明文を具体的に表している」「説明文に根拠を与えている」「説明文を補足している」という3つの観点のうち、いずれか1つ以上が該当する資料をふさわしいものと判断するよう示す。
7. (個) 自分の説明文と資料を改善する。	

35

図表 1 1 3 2 ~ 3 5 ページ 中学校 2 年生 社会・地理的分野 事例 46

4. セミナー開催

(1) 概要及びスケジュール

2023年度は、昨年度までに開発した「情報活用能力ベーシック」や「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック(小学校編)」を活用して実践した模擬授業を、ビッグイベントの中で3か所で実施する事ができ、単独セミナー2回、教育委員会とのタイアップ1回を開催できた。

図表12 セミナー開催実績

開催回数	開催日	開催場所	講師	人数
第1回	2023. 8. 3	大阪／関西教育 ICT 展・インテックス大阪 小学校模擬授業	佐藤委員 秋元委員 渡辺委員	44名 (定員 48名)
第2回	2023. 8. 4	大阪／関西教育 ICT 展・インテックス大阪 中学校模擬授業	小林委員 佐和委員 有金委員	44名 (定 48名)
第3回	2023. 10. 28	青森県三沢市／JAET 青森大会／ 三沢市公会堂	小林委員 菊地委員	11名 (定員 20名)
第4回	2023. 12. 9	千葉県千葉市／情報活用能力育成セミナーin 千葉 千葉県教育会館	岩崎委員 秋元委員 山口委員 佐和委員 郡司委員 渡辺委員	35名 (定員 50名)
第5回	2023. 12. 27	高知県高知市／情報活用能力育成セミナー in 高知 高知市文化プラザかるぼーと 中央公民館	前田委員 岩崎委員 佐和委員 菊地委員 宮津委員 郡司委員	64名 (定 員 60 名)
第6回	2024. 1. 27	沖縄県那覇市／第28回沖縄県マルチメディア 教育実践研究大会 那覇市立松島小学校	佐藤委員 秋元委員 渡辺委員	21名

第7回	2024. 3. 15	教育の情報化推進フォーラム／ 中学校模擬授業 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室	前田委員 山口委員 有金委員	120名
第8回	2024. 3. 16	教育の情報化推進フォーラムパネルディスカ ッション 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟 国際会議室	中川委員長 小林副委員 佐藤委員 稲垣委員	150名
合計				944名

(2) 概要

セミナーの開催地は以下の要領で行った。

1) テーマ

「情報活用能力を育む授業デザインを考える」

2) 内容

◆ビッグイベント

小学校模擬授業 または 中学校模擬授業

◆単独セミナー／教育委員会タイアップセミナー

基調講演

小学校模擬授業

中学校模擬授業

総括パネルディスカッション

3) 対象受講者

教育委員会、教職員等学校関係者

4) 基調講演

①「今こそ授業デザインの再考を」～情報活用能力ベーシックを活かして～

札幌国際大学 教授 岩崎 有朋

②「情報活用能力を育む授業改善と校内研修の改革 ～教師の学びをアップグレードする～」

熊本大学大学院教育学研究科 特任教授 前田 康裕

5) 模擬授業

①小学校：情報活用能力を育む授業デザインを考える～小学校6年「道徳」の模擬授業から～

模擬授業者：船橋市立若松小学校 教諭 渡辺拓也委員

②中学校：情報活用能力を育む授業デザインを考える～中学校2年「数学」の模擬授業から～

模擬授業者：北海道教育大学付属函館中学校教諭 有金大輔委員

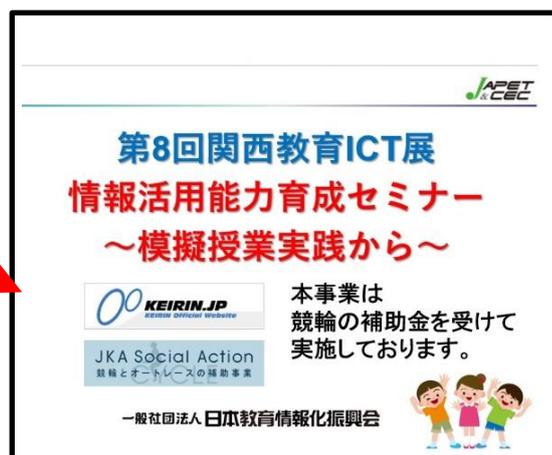
③小学校：情報活用能力を育む授業デザインを考える～小学校5年「総合的な学習の時間」の模擬授業から～

模擬授業者：浜松市教育委員会 指導主事 菊地 寛委員

④中学校：情報活用能力を育む授業デザインを考える～中学校2年「社会科・公民的分野」の模擬授業から～

模擬授業者：北海道教育大学附属函館中学校 教諭 郡司 直孝 委員

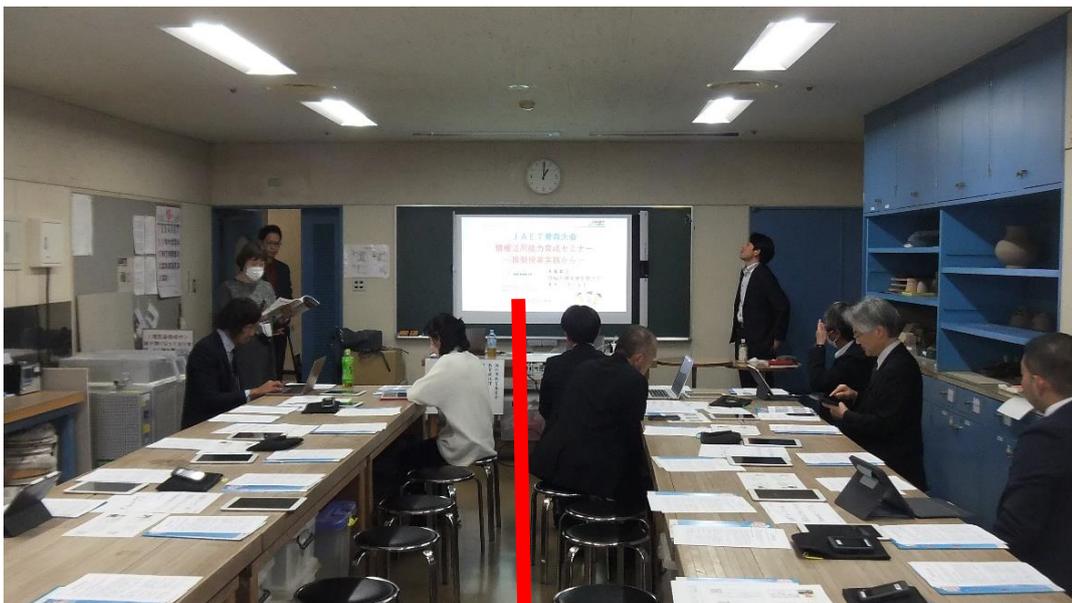
6) 開催の様子



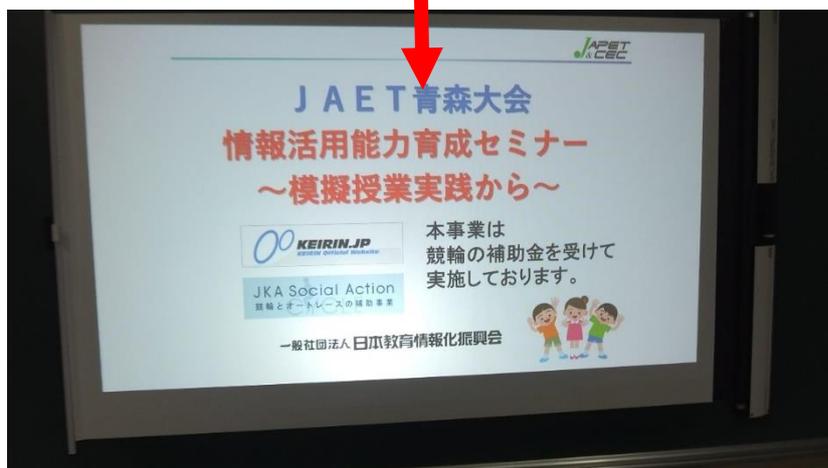
図表13 関西教育ICT展内セミナー（インテックス大阪）の様子（令和5年8月3日）



図表14 関西教育ICT展内セミナー（インテックス大阪）の様子（令和5年8月4日）



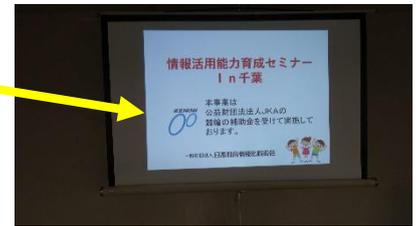
図表 1 5 J A E T 青森大会内ワークショップ（三沢氏公会堂）の様子（令和 5 年 1 0 月 2 8 日）



図表 1 6 ワークショップ開始前の J K A マーク表示の様子（令和 5 年 1 0 月 2 8 日）



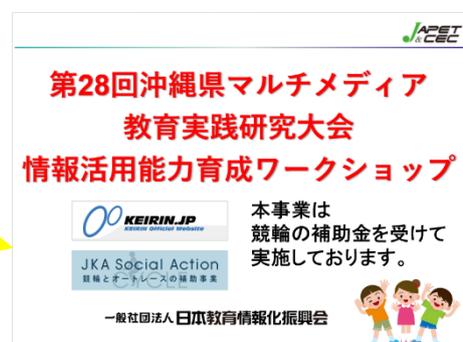
図表 1 7 教育セミナーin 岡山都のタイアップセミナー（TKP ガーデンシティ岡山）の様子（令和 5 年 1 0 月 1 4 日）



図表 18 千葉県教育委員会とのタイアップセミナー（千葉県教育会館）の様子（令和5年12月9日）



図表 19 高知市教育委員会とのタイアップセミナー（高知市文化プラザかるぼーと中央公民館）の様子（令和5年12月27日）



図表 20 第28回沖縄県マルチメディア教育実践研究大会とのタイアップセミナー（那覇市立松島小学校）の様子（令和5年12月27日）





教育の情報化推進フォーラム 情報活用能力育成セミナー



KEIRIN.JP
競輪振興会



JKA Social Action
競輪とオートレースの補助事業

本事業は
競輪の補助金を受けて
実施しております。

一般社団法人 日本教育情報化振興会 





教育の情報化推進フォーラム 情報活用能力育成セミナー



KEIRIN.JP
競輪振興会



JKA Social Action
競輪とオートレースの補助事業

本事業は
競輪の補助金を受けて
実施しております。

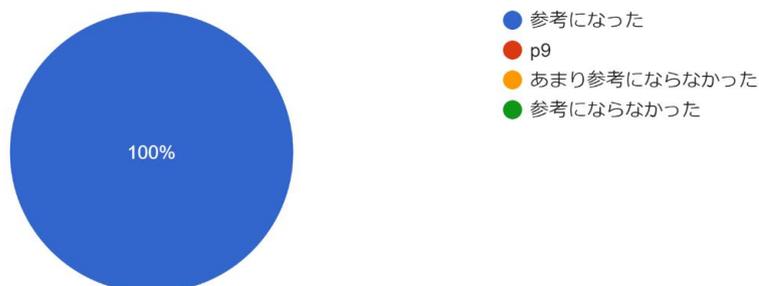
一般社団法人 日本教育情報化振興会 

図表 2 1 教育の情報化推進フォーラム内セミナー（国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟）の様子（令和6年3月15日～16日）

(3) アンケート結果

情報活用能力育成セミナーin千葉 回答：23件

質問2 全体としてセミナーの内容は、いかがでしたか。
9件の回答



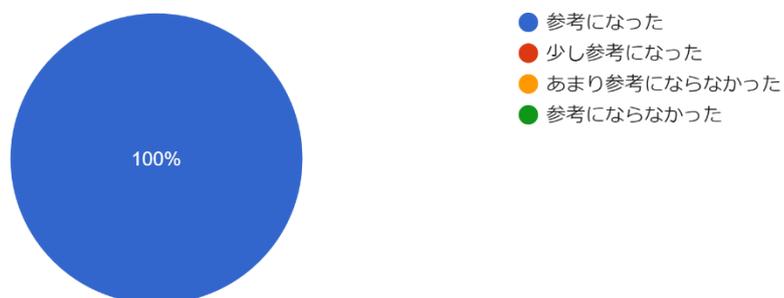
図表2.2 質問2の回答結果

質問3 本セミナーは、何でお知りになりましたか。
23件の回答



図表2.3 質問3の回答結果

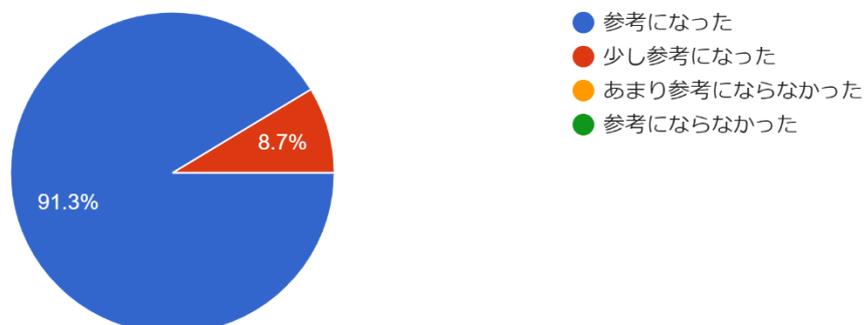
質問4 全体としてセミナーの内容は、いかがでしたか。
23件の回答



図表2.4 質問4の回答結果

質問5【基調講演】「今こそ授業デザインの再考を～情報活用能力ベーシックを活かして～」の内容は、いかがでしたか。

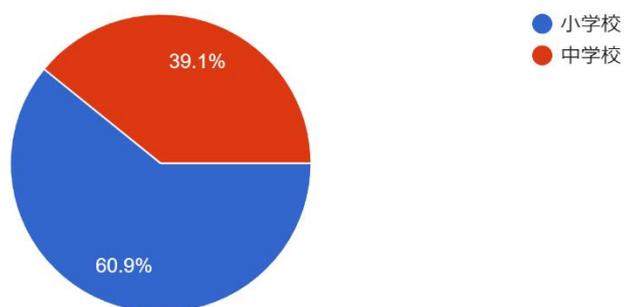
23件の回答



図表25 質問5の回答結果

質問6 参加された模擬授業はどちらですか

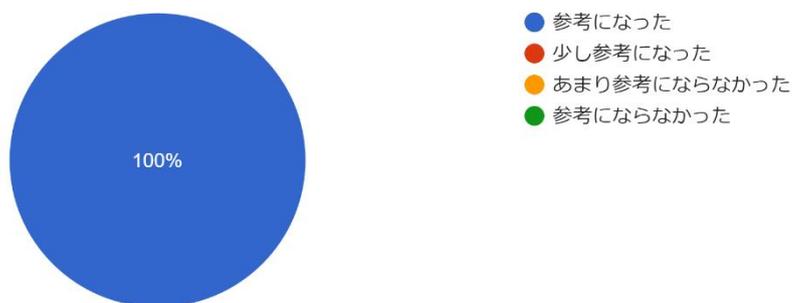
23件の回答



図表26 質問6の回答結果

質問7 参加された模擬授業の内容は、いかがでしたか。

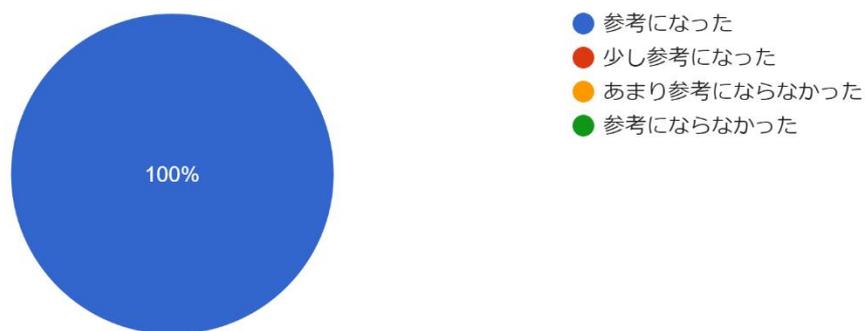
23件の回答



図表27 質問7の回答結果

質問8 総括パネルディスカッションの内容は、いかがでしたか。

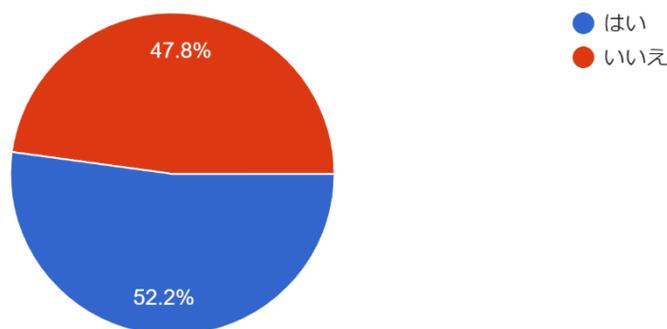
23件の回答



図表28 質問8の回答結果

質問9 当会では、「先生と教育委員会向けのメル...ご案内しています。受信をご希望されますか。

23件の回答



図表29 質問9の回答結果

質問9 セミナー全般について、ご感想等がございましたら、お願いします。

2件の回答

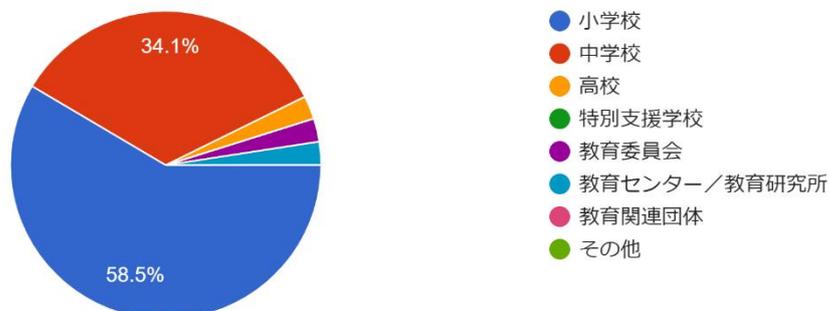
①ありがとうございました、本市でもできることから粛々ととりいれ、どんどん参考にさせていただければと思います

②ありがとうございました。大変参考になりました。メルマガは別アドレスでいただいていますので、このアドレスでは不用とさせていただきました。

情報活用能力育成セミナーin 高知 回答：41件

質問2 ご職業分類を教えてください

41件の回答



図表30 質問2の回答結果

質問3 本セミナーは、何でお知りになりましたか。

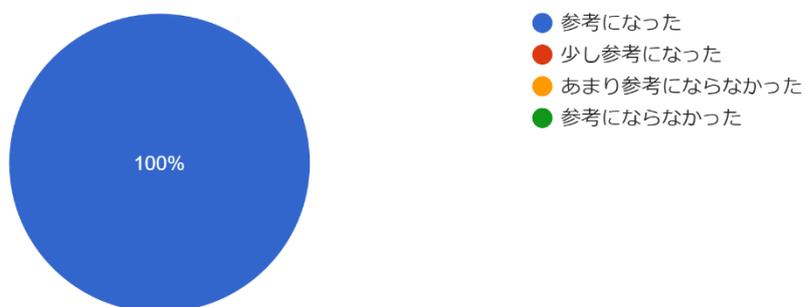
40件の回答



図表31 質問3の回答結果

質問4 全体としてセミナーの内容は、いかがでしたか。

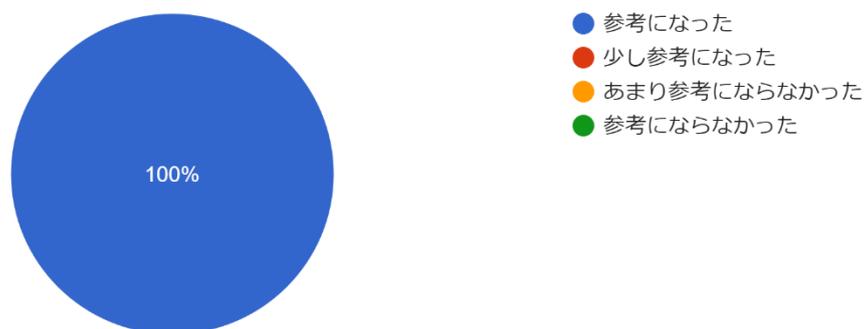
41件の回答



図表32 質問4の回答結果

質問5【基調講演】「情報活用能力を育む授業改善...グレードする～」の内容は、いかがでしたか。

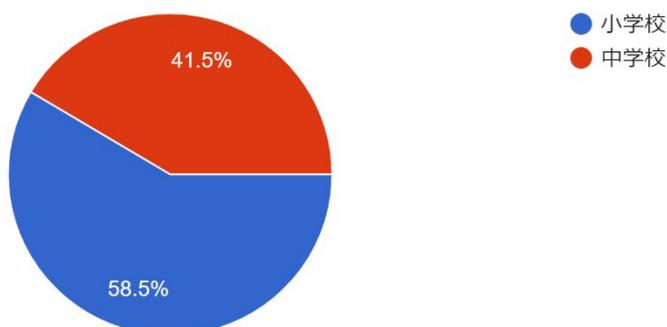
41件の回答



図表33 質問5の回答結果

質問6 参加された模擬授業はどちらですか

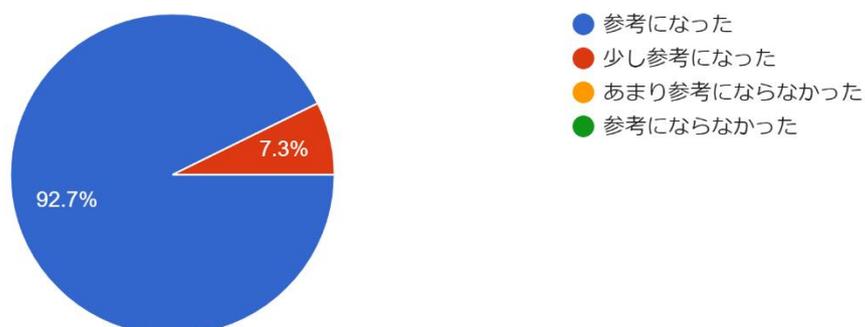
41件の回答



図表34 質問6の回答結果

質問7 参加された模擬授業の内容は、いかがでしたか。

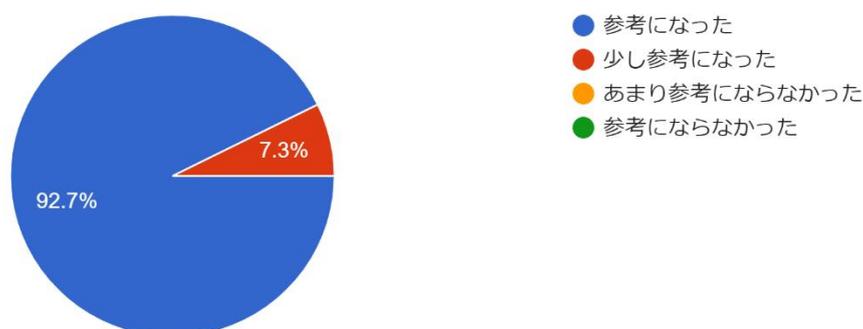
41件の回答



図表35 質問7の回答結果

質問8 総括パネルディスカッションの内容は、いかがでしたか。

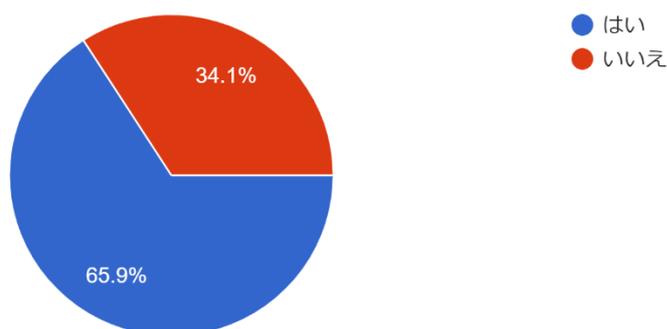
41件の回答



図表36 質問8の回答結果

質問9 当会では、「先生と教育委員会向けのメル...ご案内しています。受信をご希望されますか。

41件の回答



図表37 質問9の回答結果

質問10 セミナー全般について、ご感想等がございましたら、お願いします。

- ①本日は大変有意義な研修をありがとうございました。学ぶことが多くありました。準備等、ありがとうございました。
- ②お世話になりました。準備など色々大変だったと思います。本当にお疲れ様でした。また近いうちに高知で（高知が難しいなら四国のどこかで）開催して欲しいです。
- ③今日はすばらしいセミナーをありがとうございました。半日で多くのことを学ばせていただきました。さっそく情報活用能力ベーシックを参考にして自分の授業から変えていき、学校全体の授業改善へと広げることができたらいいなと思っています。他県の実践紹介もとても参考になりました。どうもありがとうございました。
- ④実りあるセミナーを開催いただき、ありがとうございました。

5. まとめ

本委員会では、学校現場の先生方が子どもたちの情報活用能力を育成する学習を行うために、参考となる指導指標を開発は、その指導指標を学校現場で活用してもらい、普及することを本事業の目的とした。

2023年度は、2020年度に開発した授業の構想及び実践に資することを意図し、学習のプロセスに情報活用能力を位置づけた「情報活用能力ベーシック」を活用した単元単位の実践事例集「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」としてまとめることができた。

模擬授業については、この情報活用能力ベーシックを活用した学習指導案を作成し、授業として具現化する場面を創出し、委員会で検討を重ね、教員が情報活用能力育成をイメージできるものとして開発した。2023年度は、2つのビッグイベントの中で模擬授業を行うことができた。

また、当会や関連団体が開催するセミナーとタイアップして、模擬授業を行うことができた。

教育委員会とのタイアップセミナーは、単独セミナーとして東日本1地域と西日本1地域で開催することができた。県と市の教育委員会と開催することができ、多数の学校関係者に参加いただいた。

これまでに4つのガイドブックや事例集等を製作し、それをセミナー内で活用し、広くPR出来たことが大きな成果となった。

- (1) 「情報活用能力ベーシック」パンフレット
- (2) 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック」
- (3) 「情報活用能力を育む授業づくりガイドブック中学校編」
- (4) 「理論と実践でわかる情報活用能力を育む授業づくり 情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集」

2024年度も引き続き、本事業で開発した「情報活用能力ベーシック」を全国の学校関係者に啓蒙していくために、地域密着型の施策としては、様々な地域やイベントで4つのガイドブックや事例集を活用した模擬授業を実施していき、さらに学校現場で活用されることを期待している。

また、全国の教育関係者に広まる施策としては、模擬授業等の動画コンテンツを制作し、インターネットから動画が視聴できるようにしていきたい。

教育委員会にとっても、この4つのツールは、学校指導に有効活用できるものであり、教育関係者に役立つものと考えている。今後はweb等で広く啓蒙していく予定である。

本委員会では、研究者、教育委員会担当者、校長、教員、そして事務局の日本教育情報化振興会が一丸となって、本事業を進めてきた。この冊子や取り組みが、子どもたちの情報活用能力育成に寄与することを願ってやまない。

以上

教育現場のICT安全安心対策事業 実施報告書

発行・著作 一般社団法人日本教育情報化振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング1階

TEL 03-5575-5365

FAX 03-5575-5366

<https://www.japet.or.jp/>

禁無断転載

JAPET
& CEC